

平成26年度第2回宇治市水道事業経営審議会会議録

会議名	平成26年度第2回宇治市水道事業経営審議会
日時	平成26年11月25日(火) 午後2時00分～午後4時10分
場所	宇治市役所8階大会議室
出席者	<p>(委員) 多々納会長 西村副会長 太田委員 小長谷委員          斎藤委員 澤田委員 高坂委員 西出委員          平井委員 藤原委員 山本(真)委員 山本(留)委員</p> <p>(事務局) 山本市長(諮問後、公務のため退席)          桑田水道事業管理者 中谷上下水道部長          前西上下水道部次長 小川上下水道部参事          【配水課】五十嵐課長 藤井主幹兼整備係長          【営業課】福山課長          【工務課】丸岡主幹兼事業管理係長          【水管理センター】三沢場長          【水道総務課】夜久主幹兼庶務計画係長 田中経理係長          平川主任 林主任 川瀬主任 谷尾主事</p> <p>(コンサル) 株式会社ウエスコ          (傍聴者) 0名</p>
1	開会
2	宇治市長挨拶
3	諮問第1号「水道事業の経営に関する事項について」(諮問)
4	宇治市水道事業管理者挨拶
5	宇治市水道事業経営審議会会長挨拶
6	議題
I	諮問事項について
(1)	概要説明 事務局より、諮問事項に関する概要の説明が行われた。
(2)	質疑応答
(委員)	厚生労働省が策定している新水道ビジョンに従って見直すのであれば参考資料として、新水道ビジョンを確認したい。
(事務局)	次回審議会までに送付する。
(会長)	宇治市水道ビジョンを見直すのか?

(事務局) 宇治市では経年化資産、老朽化資産が増加中である。宇治市でも地域水道ビジョンを策定しているものの、平成31年度まで厳しい経営状況が続くと見込んでいる。本審議会では、今後の経営方針と事業の実施方針の2点について、審議していただきたい。

(委員) 5年前につくった宇治市水道ビジョンからの見直しの外的要因、内的要因を説明して頂きたい。

(事務局) 東日本大震災により水道施設が多大な影響を受けたことで、施設耐震化という課題がクローズアップされた。また、人口減少も5年前と比べ、その傾向が如実に現れてきた。さらに節水型機器の普及にとともに、予想以上に水の需要が減少してきている。

## II 水道事業の実施計画について

### (1) 概要説明

事務局より、水道事業の実施計画に関する概要の説明が行われた。

### (2) 質疑応答

(委員) 石綿セメント管の安全性はどうか？石綿セメント管は強度が低く漏水が頻発していると書いてある。第2次実施計画では石綿セメント管の更新延長が3.0kmとなっているが大丈夫か？

(事務局) 石綿セメント管内を通ってきた水を飲用しても、健康上の影響はなく、問題はない。安全である。

(会長) 安全だから3.0kmの更新延長でいいのか？

(事務局) 石綿セメント管の残存延長は3.5kmであり、できるだけ早期の解消を目指している。水道ビジョンでも平成31年度までに解消する予定としている。しかし、下水道を布設する予定の区域においては、工事コストを縮減するために、下水道工事に併せた更新工事を進めている。

(会長) 3.5kmのうち、3.0kmを更新しても、0.5km残るが？

(事務局) 残りの0.5kmは点在している。点在箇所の更新は、検討を要することから第2次実施計画では、3.0kmの更新予定としている。

(委員) 強度の強いものにかえるのか？

(事務局) 全てダクタイル鋳鉄製耐震管に布設替えをする予定である。

(会長) 第1次、第2次実施計画において、当初の整備水準からどれだけの整備水準に変わったのか？あるいは最終的にどこまでの整備水準を目指しているのか？

(事務局) 管路の耐震化について説明する。平成25年度末の耐震適合率は22.8%となっており、最終年度の平成31年度末までには耐震適合率を31.0%まで増加したいと考えている。事業実施の優先地域などは定めていないが、基幹管

路のうち比較的大きな送水管や配水本管、防災拠点や医療施設等、その他緊急的に必要な路線については優先的に耐震化したいと考えている。

(会 長) 老朽管対策や施設統廃合等について、進捗状況や目標を確認したい。

(事務局) 耐用年数の40年を超過している管路が17.8%を占めている。これらの老朽化管路は耐震化と併せて更新していきたい。また、配水池の耐震化率は現在6.7%であり、平成28年度までには20%まで増加したい。

(会 長) 施設統廃合事業では、どのくらい固定費が減るのか？

(事務局) 施設統廃合により、施設を効率よく運用したいと考えている。小規模浄水場を1つにまとめるのか、あるいは基幹浄水場から流すのが効率的なのか等を考えている。固定費の削減額は試算できていない。

(委 員) 第1次実施計画について、石綿セメント管の更新箇所や、管路の更新延長について報告していただくとともに、第2次および第3次の実施計画を説明していただきたい。

(事務局) 事業費については、平成25年度の決算確定前のため見込み額とさせていただきます。具体的な箇所数や延長が未記載では分かりにくいという指摘があった。次回会議で具体的な数字を記載する。

(委 員) 水道施設の耐震化について、第1次実施計画で4,200万円の事業費に対して49万1千円と減額した理由を教えてください。

(事務局) 当初予算では、耐震補強のほか、施設能力の拡張を見込み4,200万円の事業費を計上していた。しかし、検討の結果、施設能力の拡張が不要となり、耐震補強のみで問題解決できたことで事業費が大幅に削減できた。

(委 員) 事業費のコスト削減は大変いいことである。しかし、森本ポンプ場以外にも耐震化が必要な施設は多くあると思う。前倒しで耐震化を進めていくべきではないか。

(委 員) 実施計画については、事業全体の総括を書いていただきたい。

耐震化の話もあるが、今後老朽化対策の目標に対してどう判断するのか。順調に推移しているのか、当初の目標よりも下回っているのか、時間が非常にかかりそうだと逆に懸念されるのか、もともと水道ビジョンに盛り込まれた事業だけで大丈夫か、また、それを大きく変えなければいけないという考えなのか。

(事務局) 現水道ビジョンをどこまで直すか、という質問であるが、水道ビジョン策定から約5年が経過した。その間、東日本大震災という水道事業を取り巻く環境の変化があった。基本的には中間見直しであり、現水道ビジョンに沿った見直しが本来のやり方であると考えている。しかし、東日本大震災を受けて現水道ビジョンに足りないものは何かを議論・討論し、必要なことは取り上げていきたいと考えている。

(会 長) 耐震化率は今までなら例えば25%だったが、それを变えるのか。それは「変える」で議論するか、「変えない」で議論するかで違う。東日本大震災を受けた後の対応。もう一つは、京都府からの水道の受水費が変わるという議論もあるが、まだ確定しておらず議論はできない。ただ、需要の変化で今の施設の更新や耐震化といった部分にどの程度回せるか。あるいは、それに対して今度はソフトの部分で、先ほどの統廃合等でどれだけ浮かせるかという議論である。耐震化についての目標をどこまで考えるか。それについて見解をまとめていただきたいのと、幾つかの要因の変化に対して経営状況を判断し議論できる資料をいただきたい。

(事務局) 100%耐震化ができればベストだが、100%耐震化を実施するためには、お金と人を大量に導入する必要がある、実施期間内に100%耐震化することは不可能である。仮に耐震化目標を25%から30%に上げるなら、それにかかるお金・人件費・人員が必要になる。そして必要なお金が高くなることで、皆様方の水道料金を値上げすることになる。市の一般会計と水道会計とではシステムが異なり、皆様方の水道料金のみで事業を行っているのをご理解いただきたい。例えば耐震化率を5%上げる場合のシミュレーションを示す必要があるかもしれない。現行料金を維持した場合や値上げした場合の具体的なシミュレーションを皆様方に示して論議していただくのが一番だと考えている。

### III 水道事業の経営状況について

#### (1) 概要説明

事務局より、水道事業の経営状況に関する概要の説明が行われた。

#### (2) 質疑応答

(委 員) 府営水道からは年間契約で水を購入するのか？使用水量が少なかった場合、残った水はどうなるのか。

(事務局) 京都府営水道に関しては、料金の見直しが新聞報道等でなされているが、これを買う場合、建設負担水量と使用水量の2通りの料金体系で水を購入している。建設負担水量は、平成13年度に各市町にどれだけ水を使うかと尋ねて、回答した数字であり、これを基に京都府が浄水場や管路を建設した。その建設負担にかかったお金を各市町がそれぞれお願いした水量で案分して支払うのが建設負担水量である。一方、使用水量は、通常維持費として水をつくるのにかかるお金について、使用水量という形で、「1t当たり幾ら」で京都府から水を購入している。これを足したものを京都府にお支払いしているのが現在の府営水道の受水費用である。

(委 員) 収益的収支差額で概ね6,000万円ほどの損失が計上されており、資産額

が減少していると思うのだが、この理由を確認したい。

(事務局) 減少しているのは資産額ではなく、固定資産額である。建設投資をしていないため、減価償却費よりも資産取得価格が少なくなり、固定資産額が減少している。

(会長) 経営状況を説明していただいたが、経営が厳しいのか、大丈夫なのか。事務局としてはどの様に考えているのか。

(事務局) 現時点の収益的収支がマイナスになるのは、公営企業会計として非常に危うい状態である。本来水道料金で賄うべき費用を賄えてない状態であるためマイナスが出ている。老朽化している資産をこれだけ多く抱えており、平成20年度以降もマイナスが出ていて、この先の推計でも収益的収支でマイナスが出ると見込んでいるので、非常に厳しい状況だと考えている。

(事務局) 平成25年度は貯金が3,200万円ほどあるが、平成26年度になるとマイナス5,800万円になると見込んでいる。その結果2,300万円の繰越欠損金が発生する。例えば、5年間で耐震管率を何%にすると水道事業費用はこれだけかかる、一方で、人口減少により収入は幾らになるかなどを提示させていただき、それを見て宇治市の水道は将来こういうふうにしていけば良いというのを皆さん方に議論していただきたい。

(会長) 繰越欠損金が出るのは非常に問題である。そういう状況なので非常に厳しいと。ではなぜ色々な投資が出来るのか。投資を切り詰めるなど必要があるのでは、あるいは投資をしないことで大きな問題が起きるのか、など整理していただき議論したい。

(委員) 水道ビジョンにはフォローアップについて記載されており、進捗状況の管理をし、それに基づいて計画を見直すことが記されている。当初立てたビジョンの目標に対してこの5年間でどこまで進み、どこに課題があり、何があったか、などの評価がないと見直しにならない。次回個別に説明し議論されていくが、それと併せて現行の水道ビジョンの進捗状況が順調なのか、もし順調でなければどこに課題があるかを示すものがあれば議論するための参考になる。

(副会長) 府営水道で水を買って配るコストと自己水源や自己の浄水場で水を製造して販売するときのコストを教えてください。また、鉛製給水管の取りかえ計画、鉛製給水管が現在市内でどれだけあり、どれだけ解消され、いつまでに100%改修されるのか。この2点を次の審議会で説明してほしい。

(事務局) 鉛製給水管の更新状況を回答する。鉛製給水管の残存件数は約16,000件と見込んでいる。延長ではなく件数である。給水件数が概ね16,000件

残っている。

(副会長) 総戸数は70,000~80,000件か？

(事務局) 全体の給水件数は約70,000件である。

(副会長) その70,000件のうち16,000件で鉛製給水管が残っている。

(事務局) 割合にして約23%である。

(副会長) かなり多い。

(事務局) 第1次実施計画、平成23年から平成25年にかけて約3,000件の鉛製給水管を更新した。

(会長) 第2次実施計画での鉛製給水管の更新は1,000件か。

(事務局) 1年に約1,000件、3年で約3,000件の更新を計画している。

(会長) 年間に1,000件が今のところのペースなのか、そうするとあと13年ほどかかる。第2次実施計画で3,000件更新し、残り13,000件ということは16年かかるのか。

(事務局) 1,000件ずつ更新すれば16年になる。

第2次実施計画でも年間1,000件を予定しているが、第3次以降も引き続き検討したい。

(会長) 施設耐震化と鉛製給水管の更新とでは、どちらを優先すべきなのか。比較が難しい。

(委員) 収益的支出と収入に関して議論があったが、どうして収入が減るのかという具体的な資料や企業誘致などの計画がないのか。もし大きな企業が来たら給水量や水を必要とするところも増える。また、人口分布などで自然的に人口が減少し、給水量が減っていくという、何か事象とか住宅地の開発等、経済的な状況とこの収入が結びつく形の見通しが分かる資料があればと思う。

(事務局) 工場誘致、企業誘致の件であるが、本市の市街化区域内は土地がなく、まして水を大量に使う企業を誘致するのは非常に厳しいと考えている。今、大久保地区で誘致しているのはIT関連企業であり、殆ど水を使わない企業を誘致している現状である。

(会長) 水需要の見通しについては、大口需要者と小口需要者とでそれぞれの傾向がわかる資料を確認したい。

#### IV その他

(会長) 議題Iの資料に今後の審議会の開催予定があり、次回は将来の水需要、更新の需要、財政の予測となっている。もう少し詳しいシミュレーションを示してほしい。

また、議論によっては非常に難しい話も多くなるが、場合によっては専門

部会を設置し、じっくり議論する必要があるのではと考えている。そして、専門部会で議論した資料や成案について、この審議会で議論することも一つの方策ではないかと考えている。ご賛同を得られれば専門部会の設置も検討したい。

(委員) 異議なし。

(会長) それでは、審議会の進行についてご検討いただくようお願いする。

長時間にわたり活発なご審議、ありがとうございました。次回の開催については事務局を通じて連絡させていただく。

本日はどうもありがとうございました。

7 閉会